



トラフシジミ

《侍従川との思い出》 (後編) 三浦半島昆虫研究会会長 中村 進一

<ほとりの風景>

この川のほとりの一画に、小さな漁村を思わせる地域があった。丸木船が無造作に空き地に置いてあったり、海苔を干す戸板が幾重にも幾重にも立てかけてあった。海苔を乾かすために、よく一般家庭で巻き寿司を作る時に使う「巻きす」という、竹やカヤなどで編まれたものに似た、縦30cm、横20cm四方の簾の上へのせ干すのである。その簾が、何枚も何枚も戸板に並べてあり、陽の当たる方向へ向けて、向きを変えていくのである。様々な手間と時間をかけて、海苔が出来ることを知ったのは、後年のことであった。海苔の良い香りが広がる中、傍を通っても特に気にすることはなかった。

当時としては当たり前の風景で疑問を持つこともなかったが、今思うと干された海苔はどこで獲れたのだろうか。野島や乙舳のものなのか？ それとも侍従川のものだったのだろうか。疑問だけが残ったが、いつの間にか、海苔を干す戸板も、漁村風景もなくなり、今となっては知るよしもない。

トラフシジミ (虎斑小灰蝶)

学名: *Rapala arata*

大きさ (前翅長): 16 - 21mm

分布: 琉球列島を除く日本全土

国外では中国中部から東北部、ロシア極東蛹で越冬するシジミチョウの仲間、早春と夏の終わりの2回にかけて発生する。幼虫の食草はリンゴ、フジ、クズなどよく見られる樹木だが、個体数は多くない。幼虫はワラジのような扁平な姿をしている。

熊井 健



<ヒーローまでの道程>

侍従川の川面に話しを移そう。幼い頃から川面スレスレに飛ぶギンヤンマは子どもたちの憧れのトンボの王者であった。美しさ、大きさ、飛ぶ速さと、どれを取っても「キング・王様」の地位は揺るがなかった。誰がギンヤンマを止留めるか。採ったヤツがヒーローになることは、約束されているようなルールであった。だが、子どもの網（当時の駄菓子屋で売っている昆虫網）では、採ることは至難の業で、採れる可能性は極めて0に近かった。だから私や友達、そして年上のお兄さん、年下の子どもたちまで近所の誰一人として採ってはいなかった。

そんなある日、いつものように憧れのギンヤンマを見に行った。しかし今日は、何となく、いつもとは違う雰囲気を感じていた。片手に子ども用の網を持ち、目を凝らすギンヤンマは相変わらず隙を見せない素速い飛び方で水面を周遊している。これでは、やっぱり採れない、と諦めかけた時、子ども用の網でも優に届く位置で、枝木の付いた流木が留まっていた。水面からお逃れ向きに枝が1本止まり木よろしく突き出ていた。ここにギンヤンマが止まれば採れるかもしれない。子ども心に思いをめぐらした。そして、幸運にも直ぐにそのチャンスが巡ってきた。周回を何回か繰り返したギンヤンマが、その枝先に止まったのである。ドキドキしたことを今でも覚えている。網を横に振って、その勢いで足元の地面に網を伏せた。網の中でギンヤンマがもがいていた。「わあー」採った、採ったと何度叫んだらうか、その回数は忘れたが歓喜したことは今でも覚えている。

その日を境に「虫好き・ちゃん」のレッテルが貼られ、ヒーロー気分浸った。その有頂天気分が抜けないうまま、大人になったものだから、還暦を過ぎても「虫」を追いかけている初老人なのである。この虫好きが高じて、この世界の同好の人たちと知り合い、時には意気投合して互いを理解し長いお付き合いをさせて頂いている方も多し。唯一、私が誇れるのは、その方たちが多数いることで、それが私の大切な財産となっている。このことを、この機会に伝えておきたいと思い活字にさせて頂いた。

<最後に!>

今考えると子どもの頃、近所にあった風景、環境は短期間で一変し跡形もなくなった。唯一、その片鱗が見られるのは、所々に残った侍従川の淵、そして水面の流れのように思える。川畔は近代技術で護岸が整備されて、人を近づけない趣になっている。

しかし、この川を守ろうとする人たちによって、少しずつではあるが、かつての環境が戻りつつあり、侍従川が蘇えろうとしている。様々な工夫や努力が実る日も遠くないと信じている。直向きな活動をされている方々にエールを送り、応援をしていきたいとの思いを持って、この報を終わりたい。

(終わり)

侍従川流域におけるヤマアカガエルの産卵状況の調査(2016)



ヤマアカガエル

学生部調査

ヤマアカガエルは1月から3月頃にかけて田んぼや池、水溜りなどに卵を産みます。かつて侍従川流域ではいくつか産地がありましたが、近年は激減しています。

今回は前年の調査結果と比較してご紹介します。

表 1. 2015 年のヤマアカガエルの産卵状況

日付	地名	♂の個体数	♀の個体数	卵塊数	確認者名	備考
160124	大道中学校裏山	1		0	学生部	
160129	朝比奈小学校	1		0	佐野・山田	
160131	大道小学校	0		1	学生部	蓮田で1卵塊確認
160201	朝比奈小学校			1	伊藤	
160210	朝比奈小学校	1		8	佐野	
160218	朝比奈小学校	1		78	佐野	
160218	大道中学校裏山	0	0	3	山田	ウキクサ池で2卵塊、奥の池で1卵塊確認
160305	大道小学校			1	佐野	
160312	朝比奈小学校			15	佐野	新たに15卵塊確認
160312	切り通し入口湿地			13	佐野	湿地で5卵塊、水路で8卵塊確認

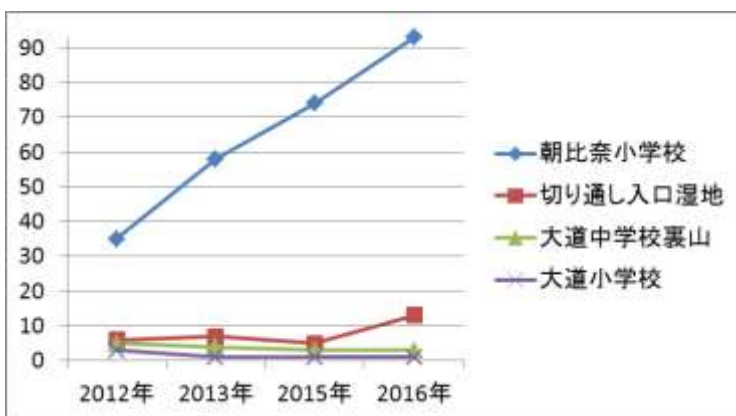


図 1. 生息地 4 ヶ所の産卵数の変遷

侍従川流域のヤマアカガエルの産卵は、4カ所で確認されています(表1)。そのうち朝比奈小学校以外の場所は毎年減少していました(図1)。

しかし、切り通し入口湿地は今年初めて増加が確認されました。



2016/2/18 卵塊 朝比奈小学校で撮影

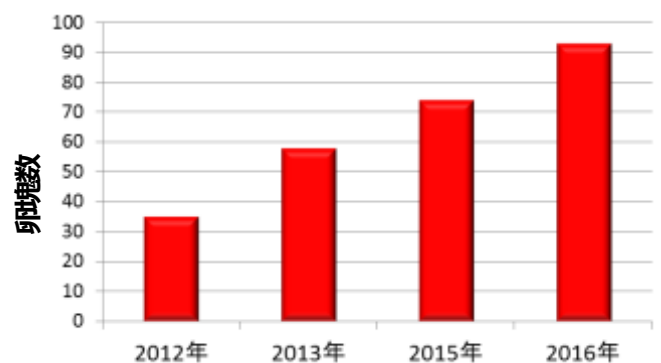


図 2. 朝比奈小学校におけるヤマアカガエル卵塊数の変遷

朝比奈小学校では、2012年8月にビオトープを復活させてから毎年産卵数が増えています。今年は今までの最高で、93卵塊が確認されました(図2)。

バチ抜け観察会（2016）

企画：学生部

2016年2月26日、学生部企画でバチ抜け観察会をおこないました。「バチ抜け」とは、ゴカイの仲間が産卵のために一斉に水面に浮上して、放精放卵をおこなう現象をいいます。今回観察したゴカイはヤマトカワゴカイという種類です。

この日は40人近い人が集まりました。バチ抜けは19時頃から始まり、20時頃にピークを迎えました。今回は侍従川右支川から汐見橋付近で観察をおこないました。



ヤマトカワゴカイを捕獲して観察



水面に浮上したヤマトカワゴカイ



集まった皆さんで記念撮影

当日は、近隣住民の方も見に来てくれて、バチ抜けや侍従会の活動に対して、「近くに住んでいるけどこんなの初めてみた！」「ゴカイでこんなに盛り上がるなんて面白い活動だ！」と、関心を示してくださいました。

バチ抜け観察会は、地域の方が生きものや侍従会に興味を持っていただく良い機会になったのではないかと思います。



タウンニュース金沢区版3月3日号でも紹介されました。

冬の森探検 in 侍従川源流の森

12月19日(土) 9:00~

【活動報告1】

今井幸子

念願の『冬の森探検』に行きました。2年前の冬、初めて参加した冬の森探検から帰ってきた翔太(息子)と夫は、「侍従会、ヤバい! 危な過ぎる…」と声を揃えてお互い言い合っていました。かなり真剣な、でも目の奥が笑っているような不思議な感じで話す2人を見て、「侍従会ってどんな団体なんだろう?」ととっても興味が湧き、それから娘とわたしも参加するようになりました(覚えている方は、2年前の「俺のグミ事件」を思い出してください。笑)。



去年は都合がつかず、ようやく今年、念願の冬の森探検に行きました。ワクワクしながら事件(笑)が起こるのを待ちましたが、順調に切通しを過ぎ、小さな池で生き物を捕まえ、竹で弓矢を作って…も、何も起こりません。最後まで何事もなく終わったときに、「2年前の翔太と夫初参加のときは、きっと侍従会のみんなの記憶にも残るほどの大ごとだったんだな。」と悟りました(翔太と夫は、それからしばらくかなりビビりながら侍従会のイベントに参加していたのですよ。笑)。何事もなく済んだ無事を喜びながら、1人複雑な気分のわたしでした。



帰り道、米軍基地の柵を横目に森を歩きながら、日本なのに日本人が入れない場所が身近にあることに驚き、森から突然眼下に住宅が密集しているのを目にした時に、《森とまちとの境界》を肌で感じて、「こんなゴチャゴチャしたところに住んでるんだ…」としみじみ思いました。



一日で《森の住人=森の生き物》の気持ちになっていたステキな森探検でした。



フユイチゴ(十二所)



トゲナナフシ(朝比奈)

12月定例クリーンアップ

【活動報告2】

12月27日(日) 9:00～11:00 晴 8℃

朝比奈橋～大道橋～六浦六号橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、石塚正夫、八木場紀元、村田章夫、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小4)、今井はるか(小1)、深沢大地、小野田幸介、中村健二、高橋一太(小5) 細川一雄(計15名)

今年最後のクリーンアップですが、暖冬の影響で年末なのにそれほど寒さを感じませんでした。今回は大人グループから1名下流の応援に加わり、残りの大人はいつもの様に上流の作業を分担しました。子ども達と大道東橋に向かって歩いていると大道東橋の上流にシラサギとオオバンを見つけましたが、しばらくすると、騒がしかったのか2羽とも飛び立って行ってしまいました。泥牛橋の横から川に降りて作業を開始します。

大道橋の下の深みに丸い椅子を今井さんが発見し引き上げてくれましたので、椅子を持ちながら上流に向かって作業を続けます。すると明戸橋の少し上流で今度は布製の財布を拾いました。中を調べてみるとお金は有りませんが、免許証と銀行のカード、各種のポイントカードが入っていましたので、作業終了後、大道交番に届けてきました。交番で調べるとドル札とユーロ札が5～6枚入っていました。

途中で太いビニールパイプも回収して、両手に大物を持ちながら作業を続け、ちとせ園前まで行くと、丁度上流組と遭遇しました。年末で循環局も休みになってしまいますので、回収したゴミは、ちとせ園の階段下に置いておき、後日回収を区役所をお願いします。その後子ども達にはお菓子と飲み物を、大人には麦のジュースを飲んでもらい今年一年の作業を終わりました。

参加された皆さん！一年間ご協力いただき有難う御座いました。



シラサギとオオバン



回収した丸椅子



山王橋上流の作業風景



ちとせ園側の作業風景



回収したゴミ袋
(ちとせ園の階段下)

1月定例クリーンアップ

【活動報告3】

1月24日(日) 9:00~11:00 晴 5℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、石渡博、八木場紀元、関場俊子、山田陽治、飯村優介、佐野真吾、坂巻央、山田尚生、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小4)、今井はるか(小1)、深沢大地、細川一雄(計17名)

この冬最強の寒波が襲来との事で、いつもより多めに服を着込み、首巻と毛糸の帽子を準備しさらに、寒い中参加してくれる方々に出発前に熱いコーヒーをサービスするべくポットに入れてちとせ園に行くと、すでに数人の参加者が……。

佐野さんが大学の仲間を誘って参加してくれましたので、早速熱いコーヒーを飲んで温まってもらいました。また、ホカロンを配りいつものように上流組と下流組に分かれて作業開始です。

青木橋の上流で石に引っかかっている小さな布を引っ張るとなかなか取れません。力を入れて引っ張ると茶色の大きなシヨール?が出てきました。

捨てられる前は素敵なおシヨールだったであろうと思われませんが、使われなくなって哀れにも川に捨てられてしまったようです。「着飾ったシヨールも飽きたら川にポイ!」こんな感じでしょうか?

大道橋上流の草原に鳥の羽が散らばっていました。猫か何かに襲われてしまったようです。さらに、大道橋下流の木の枝が剪定されてそのままになっていたので、紐で括りつけて回収しました。

そのままちとせ園に着くと下流から子ども達が上がってきました。やはり真冬になると生き物は少ないようです。子ども達にはお菓子和ジュースを、大人には麦のジュースを飲んでもらい今日の作業を終わりました。

今年も1年宜しくお願い致します。



ブックオフ下の清掃作業
(寒さが身にしみます)



回収したシヨール
(長さ 2m × 幅 1m)



青木橋下流右岸の排水口
(赤茶けている)



回収したゴミ(12月と1月分)

前日は冷たい雨が降り、当日はあいにくの曇りで、山中はぬかっているか気になりながらのスタートでした。今回、かご作りは4人で2回目の参加です。

前回は初めてともあり、ツルというものを探るのが精一杯でした。今回は、『これは切れやすいかも…』と選びながら採りました。幸成（年中）は宝物を見つけるかのように探して、真菜（小4）は、初めて会った子と直ぐに仲良くなり、崖を降りて探していました。みんなで頑張って運び、山田さんのレクチャーを受け、いよいよカゴ作り。

前回、真菜は思うように編めなくて途中で挫折しコースターになりましたが、今回は一人でランクアップしたコースターを最後まで作りました。真穂（中2）と私は、前回と同じくカゴを作りました。子どもの方が早くて器用に編んでいき、私は途中でおれてしまったりで何度かやり直しをしました。

みんな思い思いの作品が出来、わが家で活用しています。

《生き物発見記録》

12/19（土）朝比奈小学校裏山でオオミドリシジミの卵を確認（佐野）①



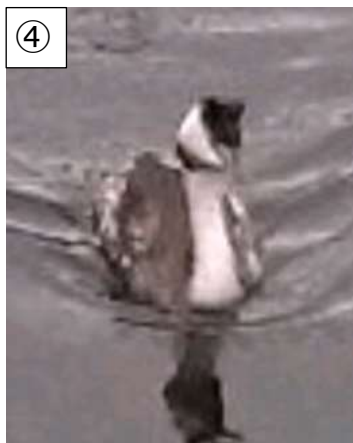
1/23（土）朝比奈小学校裏山でノウサギの糞を確認（佐野）②



2/7（日）朝比奈小学校裏山でゴマダラチョウ幼虫を確認（佐野）③



2/15（月）泥牛橋付近と侍従橋付近でカムリカイツブリ発見！（白石匠）④



3/12（土）朝比奈小学校でアズマヒキガエルの卵塊を確認（佐野）⑤





2月定例クリーンアップ

【活動報告5】

2月28日(日) 9:00~11:00 晴 10℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、石渡博、八木場紀元、石塚正夫、関場俊子、村田章夫、外川忠志、小野田貴美子、小野田俊介、菊池栄美、菊池悠紀、菊池光成、柴田繭子、柴田真穂、柴田真菜、柴田幸成、佐野真吾、金子英司、深沢大地、細川一雄(計22名)

週末までの寒さが嘘のように、2月とは思えない暖かい日となりました。桜の蕾も心持ち大きくなっているように感じられました。あと1ヶ月もしないうちに桜が咲き始め、花見が待ち遠しいこの陽気です。今日は、NHK Eテレのなりきりむーにゃんの撮影(山田さんが出演)が大道東橋下で有るとのことです。いつものように2班に分かれて作業を開始です。

途中大きな丸い鉄の板が川の底に廃棄されていました。厚さが5mmほどあり土嚢袋に入れるとズシンと重さを感じられました。少し下流で今度は筆箱くらいの大きさで厚さが3cmほどの鉄の板が有り、大道橋の下では直径5cm位のボルトが捨てられていました。今日は鉄に縁の有る日でした。また、相変わらず煙草の吸殻とガラスのかけらが沢山落ちていました。

ちとせ園に着くと下流のグループは既に清掃を終え一息入れていました。ゴミの入った土嚢袋を纏め7袋にして県営住宅に置いておきました。後日金沢区役所の区政推進課に回収してもらいます。



ブックオフ下から上流の朝比奈橋に向かいます



清掃終了後のひと時



回収したゴミ袋(7袋分)



大きな鉄の丸板と色紙に描かれた七夕の貼り絵



琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～
～ アマミアカハネハナカミキリ ～



学名 : *Formosopyrrhona satoi*

体長 : 13-17mm

分布 : 奄美大島、沖縄本島北部

やんばる (=沖縄島北部) の山々が新緑の季節を迎える頃に現れるビロードのような美しさを持ったカミキリムシの仲間です。カミキリムシといえば、材木、果樹などの害虫として有名ですが、ハナカミキリの仲間は花の花粉などを食べているので、植物にとっては子孫を残すための花粉媒介者として一役買っています。

本種は同じ時期に現れるベニボタルという有毒の昆虫に姿を似せるベーツ型疑態によって身を守っています。数はとても少なく、逃げ足がとても速いので、3年かけてやっと撮影することができました。

監修 : 熊井 (沖縄在住)

トピックス (その1)

12/19 (土) 金沢八景にて忘年会が開催されました。
12/29 (火) 夕方5時頃、横濱屋から長島橋付近の鯉のいる辺りまで、侍従川が真っ白になっていた。交番によると、弱アルカリ性の洗剤が流れたと報告があったとのこと。(報告 森)



侍従川に親しむ会の皆様、こんにちは。大道小学校・環境担当の玉利です。

3月を迎え、大道小学校は、卒業式で恒例となっている「菜の花卒業式」の準備を進めています。暖かい日が多く、開花がとても早いような気がします。今年も卒業生のために、たくさんの花を咲かせてほしいです。春が近づくにつれ、大道小の環境活動も少しずつ活発化してきました。

ヤマアカガエルの卵を発見しました！

3月を迎えると、トンボ池にある変化が訪れました。それは、カエルの卵です。子どもたちが見つけてくれた卵をよく見ると、ヤマアカガエルの卵でした。まだまだたくさんあると思うので、引き続き調査をしてみたいと思います。

菜の花が満開！

今年も全校で菜の花を育てています。昨年までは1人1鉢で育てていましたが、今年は1年生～6年生が混ざった交流グループ（なかよし班）ごとに菜の花を育てています。曜日ごとに学年で水やりをしたり、雑草抜きをしたりと、10月から様子をみながら育ててきました。

もう少しで満開となりそうです。卒業式には満開になるように、水やりをしたり、追肥をしたりして丁寧に見ていきます。大道小学校の正門池の前にも菜の花がたくさん咲いているので、ぜひご覧ください。

トピックス（その2）

- 1/11（月・祝）第30回横浜の水辺と緑を考える子ども会議の実行委員会（1回目）が舞岡中学校にて開催されました。高橋一太（副委員長）、深沢大地、内山美優、浦なつこ、山田陽治、藤間康司（サポーター）が参加しました。
- 2/11（木・祝）子ども会議の実行委員会（2回目）がトレッサ横浜にて開催されました。内山美優、浦なつこ、山田陽治が参加しました。
- 2/28（日）『なりきり！むーにゃん生きもの学園』（NHKE テレ）のロケが侍従川 大道東橋付近で行われました。山田代表が出演します。放送は4/16（土）7:15～7:30、再放送4/21（木）15:45～16:00
※番組最後に「取材協力：ふるさと侍従川に親しむ会」とクレジットが出ます。

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～代表、山田さんの信念～

現在は侍従会の代表である山田陽治さんとの思い出は計り知れないものです。私の人生の中で最も多くの時間を過ごし、影響を与えてくれた人物と言っても過言ではないでしょう。そんな山田さんについては、この連載で今まで何度も書かせていただけてきましたが、今回は、侍従会の中での山田さんが、侍従会について語った信念について書かせていただきたいと思います。

山田さんとは初めて出会ってから20年以上が経ちます。私が子どもの頃の山田さんは侍従会学生部の隊長（リーダー）でした。山田さんは中学生の私たちに「俺は学生部を新撰組にしたい!」と言っていました。それは、闇討ち、辻斬り、天誅をおこなう危ない集団にしたいという意味ではなく、フィールド経験に長け、どんな場所や状況でも人をあっと驚かせるような珍しい生きものを、強く野蛮に採集してくる横浜一の最強生きもの集団にしたいという意味でした。

そしてそんな夢を語る山田局長は、もちろんの先頭を切って、強く野蛮な行動で強引にフィールドで成果を上げ、その姿を中学生・高校生に見せつけていました。そのため、山田色に染まった当時の学生部は、体力がある人と生きものが採れる人が大きな評価を得られるという風習になっていました。

しかし、山田さんは、学生部を新撰組にしたいという漫画のような夢とは別に、侍従川や侍従会に対してはもっと大きな夢を抱いていました。そんな真面目な話をしてくれるようになったのは、私が高校生になったくらいの頃でした。その頃の私はあまり侍従会には行かなくなりましたが、山田さんと二人で会う機会は増えました。朝比奈の森や葉山を歩いたり、徳島県を旅したりもしました。そして二人で歩きながら、「侍従川にウナギやテナガエビが増えるようにするにはどうしたらいいか?」「流域に田んぼをつくることはできないか?」というような、侍従川をもっとこうしたい!という現実的な夢について話をしてくれました。

でも確かに、思い起こせば、山田さんはずっと前から毎年、年度の始まる頃になると「侍従川のマスタープラン」と称した絵を書いていました。そしてその絵を見て、子どもながらに山田さんは侍従川のもっと先の将来を考えているんだろうなあと感じていましたが、その時は、自分たちの力で川をなんとかできるなんて思ってもいなかったのでイメージが持てませんでした。しかし、高校生になり、少しだけ経験を積んだ私にはもう山田さんの考えている夢や信念を理解することができました。



さて、この話を書くにあたり、先日山田さんに会ってインタビューをさせていただきました。

「山田さんにとって信念ってなんですか？」

「え？（笑）まあ自分の夢とかやってることを何があっても絶対やめないことかな！」

「なるほど！ 僕にとっての信念も同じです！ 今まで自分のやってきたことのプライドや実力が崩れそうになったことは何度かありましたが、その時やめないで前を向けるのが自信と信念だと思ってます！」

「分かるよ！ おれも、もし今やっていることやめていたら死んでしまうかもしれん！

（笑）」

「では、今と昔で、自分の中の侍従川に対する思いに変化はありますか？ 今でも学生部を新撰組にしたいですか？（笑）」

「う～ん～今の子どもたちはまたキャラが違うからなあ～（笑）でも侍従川に生きものがたくさんいて子どもたちが遊べる川にしたいっていうのは変わらないよ！ いや違うな！ 子どもたちが遊べる川にしたいっていうのは、俺は、大人は思っちゃいけないな！ 生きものがたくさんいる川にして、あとは子どもたちも俺もそこで勝手に遊べばいい！」

「なるほど！！ よく理解しました！！」。

子どもたちが遊べる川にしたいと俺は思っちゃいけない。生きものがたくさんいる川にして、あとは子どもたちも俺も勝手に遊べばいいという山田さんの思いは、なんて言葉で説明していか難しいのですが、私はとてもよく共感できました。子どもが遊べる川にしたいというのは美しい理由ですが、それは大人になってしまった人が思うことで、山田さんがやりたいことは川や生きものと遊ぶことです。そして、これは山田さんの中で昔から変わることのない夢であり信念だからです。

私は、子どもの頃から山田さんのもとで育ちましたが、私は山田さんと同じ道には進みませんでした。私は生きものを採ったり撮ったり捕ったりするのが好きで生きがいだと思っています。だからこそそんな生きものたちがいなくならないように考え活動する道に進みました。山田さんの役割が多くの人たちに生きものや自然の魅力や大切さを伝えることなら、私の役割は、生きものや自然のことを知り守ることだと思っています。

しかし、役割は違ってもそれは方法やアプローチの違いであって、目的は一緒だと思っています。私も生きものがたくさんいて勝手に魚や虫を採って遊べる川にしたいので、自分が当時の山田さんと同じ学生部のリーダーという立場になった今、これからも山田さんの意思をたくさんの人たちに繋げていきたいと思っています。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

幻(まぼろし)の滝

晩冬のある日、少年時代の名所を訪れた。

朝比奈小の南、ユーカリ園の奥の谷に滝があるのだ。

もうれつなヤブに閉ざされ、水のあることも忘れられている。

少年時代、滝登りの練習をした記憶がある。

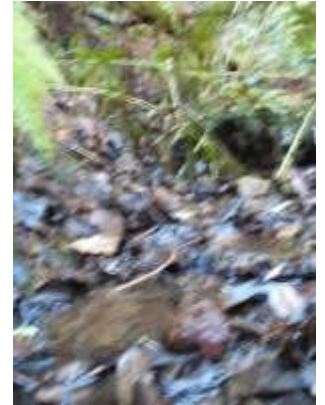
ヤブのうすい最短距離を進み、山裾の側溝に着く。水もなく奥につづいている。しだいにネザサとアオキの背丈を越えるヤブとなり倒木も加わる。まだ水の気配もなく普通なら戻りそうなところだ。8分くらいで谷奥となり水が現れる。

記憶どおり少量の水は枯れることなく、さらに進む。

そして眼前に高さ8m、長さ10mくらいの滑り台のようなナメ滝が現れる。水がしたたりチョロチョロとすべりおりている。

これが最奥に眠るまぼろしの滝である。

(つづく)。



水出現



滝上半



滝下半



虫のきょういく座談会 ～亭主関白になるカギはシロスジカミキリ～



参加者：高桑・中村・佐野（歩海）・佐野

これは2015年の年末の話である。筆者佐野は妻歩海と二人で金沢文庫駅にいた。この日は、侍従会顧問で元生命の星・地球博物館学芸員の高桑正敏氏と現在ダボハゼ通信の「私の子どもだった頃」を連載してくださっている三浦半島昆虫研究会会長、中村進一氏と4人で忘年会をおこなう予定となっていた。

高桑「おお～佐野く～ん」

佐野「あっ！高桑さん！今日はありがとうございます！こちら妻の歩海です！」

歩海「初めまして妻の歩海です！」

高桑「どうもどうも！高桑です！」

さらに間もなく

中村「どうも～」

佐野「突然お誘いしてすいません。こちら妻の歩海です！」

中村「やっと佐野くんの奥さんに会えたよ！（笑）初めまして中村です！」

結婚してからずいぶん経ってしまったが、この日は虫界の重鎮であるお二方に初めて妻を紹介したのであった。

さて、飲み屋に入り序盤は、4人全員が侍従川流域出身者ということもあり、地元トークで盛り上がった。

中村「俺と高桑さんは六浦中学校・金沢高校の先輩後輩なんだよ」

歩海「へえ～そなんですね！」

高桑「でもシンちゃん（中村）と俺は3年歳が離れてるから中学高校は被らなかつたんだよね！」

中村「そうそう！でも生物部の部室には高桑さんの書いた記録とか標本があったから、どんな先輩なんだろうと憧れを膨らませて、塾も高桑さんが行ってたっていう中萬学院に行ったんだよね！（笑）」

歩海「その頃から六浦に中萬学院ってあったんですか？あれシンちゃん（佐野）も中萬通ってたんじゃないかっけ？」

佐野「うんそうだよ！大先輩ですね！（笑）」

高桑「ていうか、佐野くんも「真吾」だから「シンちゃん」なんだよね！（笑）」

中村「じゃあ俺は元祖シンちゃんだ！（笑）」

序盤はこのような地元トークであった。しかし、話題は巡り巡り、次第に虫屋の家庭事情に移っていった。

高桑「シンちゃん（中村）は亭主関白だよねえ！！」

佐野「確か結婚して間もない頃、奥さんにチョウの幼虫の飼育をさせて大変なことになったって言ってましたよね！」

歩海「なんですかそれ？（笑）」

中村「そんな話よく覚えてるね！（笑）いやあチョウの幼虫って蛹になる前は、食草から離れて蛹になる場所を探して歩き回るんだけどね。飼ってた幼虫が同時期に容器から逃げ出して、ウチの奥さんが寝ている時に部屋の天井で一斉にモゾモゾして、「ギャー」ってなったって話！（笑）」

歩海「それはホラーですね！（笑）」

高桑「さすが亭主関白！！」

中村「高桑さんだって奥さんにみかんの皮剥かせるんでしょ？めちゃくちゃ亭主関白じゃないですか！」

佐野「みかんの皮ですか？（笑）」

高桑「そもそも皮を剥かないと食べられないっていうのが面倒くさいんだもん！」

中村「なら食べなきゃいいじゃないですか！（笑）亭主関白だなあ～（笑）」

高桑「いやいや俺なんかぜんぜんだよ！ ウチはネコを3匹飼ってたんだけど、俺はネコよりも下だったよ！ おまけにムスターが来た時はムスターより下だったよ！（笑）でも最近ネコちゃんが1匹死んじゃって一つランクが上がったんだけど、順位はそのまま！（笑）」

佐野「奥さんが強い家庭の方がうまいくって聞いたことがありますよ！ ウチもそうです！」

歩海「そんなことないでしょ！ 私が恐妻みたいじゃない（笑）」

中村「佐野家は、虫は大丈夫なの？」

佐野「生きもの関係は大丈夫です☆ 部屋の中にも冷蔵庫の中にもたくさん入ってます！」

高桑「少し前にタガメとゲンゴロウを食べたって言ってたよね？ 奥さんも一緒に食べたんでしょ？」

歩海「はい食べました！ タガメはハーブみたいな味でしたけど、やっぱり美味しくはなかったです。」

佐野「ゲンゴロウはゲンゴロウの臭いがそのまま味になった感じで不味かったですね！」

中村「それは嫌だね！（笑）」

高桑「カミキリムシは美味しいよ！ 特にシロスジカミキリの幼虫なんか甘くて美味しいから食べてみな！」

歩海「カミキリムシの幼虫ってどんなの？ カブトムシの幼虫みたいな感じ？」

佐野「まあ似てるけど似てないかな！ 今度食べてみよう！」

歩海「う～ん…」

こうしては、高桑氏からカミキリムシの幼虫を食べることを勧められ本座談会は終了した。その後、高桑氏オススメの金沢文庫の名店「ラーメン屋 大公」に行きこの日は解散となった。

しかし、この日以来、妻歩海はカミキリムシではなく「ラーメン屋 大公」にはまり、ことあるごとに大公に行きたがるようになった。ラーメン大公の白みそラーメンはオススメだという。しかし、筆者佐野は、それよりもシロスジカミキリの幼虫を食べることを勧めたい。そして、いつの日か妻が夕飯にカミキリムシを出してくれた時、亭主関白へのみちは開けるのではないかと期待している。

(おわり)



侍従川定例調査報告 学生部

2016年1月24日(日)

【調査地】 大道中学校

【確認した生物】 ホトケドジョウ(39)、ショウジョウトンボ幼虫(10)、オオシオカラトンボ幼虫(6)、ミズムシ(多)

【備考】 大道溪谷の一部が詰まり流れがせき止まっていました。またホトケドジョウが多く見られる水路もその影響により、入口が詰まり淀んでいました。また、グラウンドにあるコンクリ水路の上に張る鉄網のフタが2つとタイヤが1つ川に投げ捨てられていました。

詰まっていた流れの通りをよくするために落ち葉と捨てられていた網のフタとタイヤを取り除く作業を行いました。ただ下流側の詰まりは片手間の作業ではできないレベルなので、今後検討が必要だと思えます。

【調査地】 大道中学校の裏山(畑内の池5カ所)

【確認した生物】 ヤマアカガエル成体(1♂)、ヤブヤンマ幼虫(4)

【備考】 ヤマアカガエルの産卵はまだ確認されませんでした。

朝比奈市民の森に向けての作業が大規模に行われていましたが、斜面の伐採や日母子寮跡地のデザインなど、一部心配な点がみられました。横浜市南部公園事務所に聞いてみたいと思います。

2016年2月28日(日) 9:00~11:00

【調査範囲】 泥牛橋~二の橋

【確認した生物】 クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシッピアカミミガメ、ウキゴリ、スミウキゴリ、スミウキゴリ卵塊、ビリンゴ、チチブ、ボラ、メダカ、テナガエビ、ミゾレヌマエビ、ヤマトカワゴカイ、カワニナ、イシマキガイ、ダビドサナエ幼虫、コヤマトンボ幼虫、ハグロトンボ幼虫、キタテハ



【備考】昨年長島橋付近で確認されたヤマアカガエルの卵塊は確認できなかった。ビリンゴがヤマトカワゴカイを捕食する瞬間を撮影した。

【調査範囲】里野橋～大道橋

【確認された生物】ウキゴリ ※産卵確認

【備考】上流域はこれまでスミウキゴリが多く見られたが、今回はウキゴリのみ確認された。卵塊を保護する親魚は2個体確認された。



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆4月～6月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ 4/24 (日)、5/29 (日)、6/26 (日)

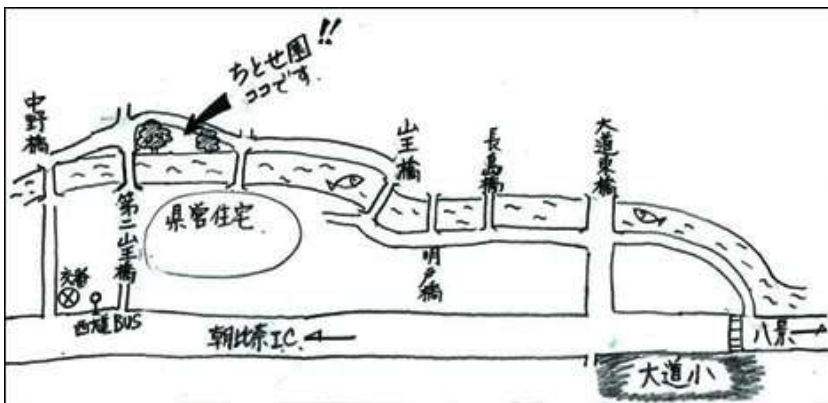
9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

持ち物：川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人) ※川の上からの参加でも構いません

☆4/2 (土) 野草パーティー 集合：大道小9時 解散：ちとせ園15時頃

参加費：会員¥100 非会員¥200

要申込み：山田 09038060055 又は yohji-y@ezweb.ne.jp まで



会のホームページはこちら
<http://ji.jyukai.web.fc2.com/>
会報をカラーで見ることができます。

☆6/4 (土) 会員のつどい 18時～ 大道コミュニティハウス2階

☆6/4 (土) ホタル観察会 19時30分～ 大道中学校

※詳細はホームページ及びメーリングリストで

■学生部の活動は追ってお知らせします。

《編集後記》 今年桜の開花が早かったですが、開花した途端に花冷えも始まりました。その分、長く桜が楽しめそうです。ちとせ園の桜も長持ちするといいいですね。(MK)

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局

金沢区六浦5-23-26

長橋 輝明

TEL : 080-7697-8181

e-mail : sunhearts21@gmail.com